

2018年度 児童発達支援自己評価の結果をお知らせします

かでる湘南 おひさま

おひさまでは、利用者や保護者により良いサービスの提供を図るために、厚生労働省が定める「児童発達支援ガイドライン」を基にして評価項目を設けて保護者のみなさまに評価をお願いし、その結果をふまえておひさま職員一同で事業所の点検、自己評価を行いました。

これからも工夫点を一層活用し、改善点は速やかに取り組んでいきますので、今後とも忌憚のないご意見、ご要望等をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

		チェック項目	取り組み状況(工夫している点、改善が必要な点等)
環境・体制整備	1	利用定員が、療育室等スペース等の関係で適切であるか	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、落ち着いた環境のもと(パーテーション等の活用)で療育や支援が受けられるように法令にそった物的環境、人的環境を満たすよう努めています。また、利用人数が多く慌ただしい日もあるため、これからも個々の利用者の特性に配慮して設備の改善(ユニバーサルデザイン化)を図っていきます。 ・ご指摘を受け、「上着かけ」フックの調整を行うなど安全対策を講じました。
	2	職員の配置数、専門性は適切であるか	
	3	おひさまの設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	
業務改善	4	管理者、児童発達支援管理責任者、指導員との役割を果たしてほう(報告)れん(連絡)そう(相談)を推進し、業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・「チームおひさま」として、職員会議や所内研修会で改善に向けての意見交換の機会を設けたり、掲示板や回覧板を活用したりして業務の改善に努めています。
	5	保護者等向け評価表を作成し、利用者や保護者に対して事業所の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度末に必ず実施して、次年度おひさまの業務改善につなげています。
	6	この自己評価の結果をふまえ、おひさまとして自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、おひさまだよりや法人のホームページ等で公開しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年公開し、今後も月刊「おひさまだより」やホームページ等で公開します。
	7	職員の資質の向上のために、研修の機会を確保しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、指導員が順番に「実践事例報告」を行って療育や支援に関する資質の向上に役立てたり、「児童発達支援ガイドライン」「放課後等デイサービスガイドライン」等の学習会を実施したりして日ごろの療育や支援の振り返りにも役立てました。
適切な支援の提供	8	利用者のアセスメントを適切に行い、利用者と保護者等のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者アンケート」「ビジョントレーニングアンケート」を活用してより一層「利用者と保護者の願い」にそった個別支援計画を作成しています。また、定期的に実践事例発表会等を実施して、効果的な個別の療育や支援を推進しています。
	9	利用者の適応行動の状況を図るために、保護者アンケートや各種のアセスメントツールを使用しているか	
	10	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から利用者の支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童発達支援ガイドライン」の学習会を企画し、日ごろの療育や支援に具体的に活用したり、個別支援計画の書式を改定したりして取り組んできました。
	11	児童発達支援計画にそって、個別の療育や支援が行われているか	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に行っていますが、保護者からも「利用者の成長に合わせ、集中して取り組めるよう計画をしています」との評価をいただきました。
	12	余暇活動等のプログラムの立案をチームで行っているか	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の療育や支援のもと、利用者の特性に合わせてプログラムを組んだり(買物や調理等)、指導員間の情報交換をより密に行ったりすることで、指導員が代わってもプログラムがスムーズに実施できるよう配慮しています。 ・公共交通機関を利用する余暇活動を実施して、日ごろの療育や支援の定着を図っています。
	13	療育や支援の活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	
	14	利用者の状況に応じて、個別の活動と小集団での活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・一対一の個別対応を基本としているため、小集団活動の機会(リトミックや余暇活動)を毎月各一回ずつ設けて他児との関わりや、個別療育の深化を念頭において計画を作成しています。
	15	療育や支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる療育や支援の内容、役割分担等について確認しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・一対一の個別の療育や支援のため、療育前後の細かな打合せを必要としますが、出欠や予定の確認、気づいた点、振り返りやまとめ等の打合せは、療育や支援の充実のために次年度から設けていきます。
	16	療育や支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた療育や支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	
	17	日々の療育や支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	<ul style="list-style-type: none"> ・療育前後の気づいた点等の情報交換とともに、常時療育や支援の記録を取ることで療育や支援の検証・改善に役立てています。
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・半年ごとに実施して、利用者や保護者の願いを反映させています。
	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その利用者の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・計画相談を活用して、次年度から参画の予定です。

関係機関や保護者との連携	20	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者、関係機関との連携した支援を行っているか	・子育て支援センターからの要請の機会がありますので、今後一層の連携を深めていくよう努めます。
	21	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	・保護者の了解のもと、一部の利用者には幼稚園等を訪問して保育参観を行い、その後園長や担任等との情報交換を行いました。
	22	小学校や特別支援学校(小学部)との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	
	23	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	・今後の大きな課題となっていますが、実施に向けて努めています。
	24	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、療育や支援の必要のない子どもと活動する機会があるか	・保育園や幼稚園修了後の個別の対応が主であるため、機会を設けることが難しい状況となっています。
	25	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	・厚木市通所事業所連絡会には複数で参加し、情報交換を行うなどの研修を行っています。
	26	日ごろから利用者の状況を保護者等と伝え合い、利用者の発達の状況や課題について共通理解を図っているか	・療育や支援の開始前や修了後に時間を設けたり(家庭等での様子や療育の内容等)、年2回の個別面談や随時機会を設けたりして共通理解を図っています。
	27	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	・子育てと親育ちを合わせて取り組んでいます。
	28	運営規程、利用者負担等についていねいな説明を行っているか	・新規契約時、契約更新時には必ず実施して、内容の説明と理解に努めています。
保護者への説明責任等	29	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	・昨年度から課題としてきた点で、反省を活用して利用者全員に6ヶ月ごとに実施して同意を得ています。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ必要な助言と支援を行っているか	・年2回の「個別相談」の機会を設けたり、随時相談を受けたりして実施後にファイルに収納、回覧し、常時職員が共有できるように配慮しています。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	・2回目の「ファミリーコンサート」を開催し、参加を呼びかけて趣旨の周知を図るとともに父母の交流や学びの機会としました。今後も利用者、保護者、職員参加の行事開催を検討していきます。
	32	利用者や保護者からの相談や申し入れについて対応の体制を整備するとともに、利用者や保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	・相談や申し入れについては、おひさま内に手順を掲示するなど整備を行って、迅速に対応できる体制はできています。
	33	定期的に「おひさまだより」等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を利用者や保護者に対して発信しているか	・「おひさまだより」に交代で職員執筆の原稿を掲載して、職員の思いを保護者に伝えたり、活動内容や行事の予定等を知らせたりして発信しています。
	34	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	・電子データにはパスワードを設定し、個人ファイルを収蔵する書庫には施錠して取り扱いには慎重を期しています。また、多数の目に触れる場合の利用者名の記述は、個人が特定できないように記述を最小限にする、作品の展示には利用者や保護者の同意を得るなどの配慮をしています。
	35	療育や支援の必要な利用者や保護者との意思の疎通や、情報伝達のために配慮をしているか	・療育に来所した折には、利用者や保護者の話を聞くことに努めています。また、欠席が続いた場合には電話等で様子を確認したり、家庭を訪問したりするよう努めています。
	36	おひさまの行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	・利用者が一堂に会する場合がない、事業所が商店街にあるなどのため、地域へ働きかける企画の立案が難しい状況にあります。今後も、検討を要する課題とします。 ・2回目の「ファミリーコンサート」を開催し、ポスターやチラシ等で地域へ参加を呼びかけて趣旨の周知を図るとともに交流を深めることができました。
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、利用者や保護者、職員に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか	・各種マニュアルを一冊にまとめて作成・配布するとともに、避難用備品や感染症予防等の用具を備えて周知を図っています。
非常時の対応	38	非常災害の発生に備え、定期的に非難、救出その他必要な訓練を行っているか	・防災訓練は回数を増やして職員が迅速に動けるよう対応したり、合い言葉「お・か・し・も・ち」を掲示して安心感をもてるよう配慮したりしています。次年度は、さらに回数を増やして多くの利用者や保護者、職員が体験できるよう計画をしています。
	39	事前に、予防接種やてんかん発作等の利用者の状況を確認しているか	・療育開始時など、適宜確認をしています。
	40	食物アレルギーのある利用者について、医師の指示書に基づく対応がされているか	・「保護者アンケート」に記述欄を設け、対応策を職員に周知しています。
	41	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか	・「ヒヤリハット報告ファイル」を作成、回覧して常時職員で共有を心がけています。
	42	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	・所内研修会を適宜設けて、人権意識の啓発と虐待防止意識の向上に役立てています。
	43	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて組織的に決定し、利用者や保護者に事前に十分説明して了解を得た上で児童発達支援計画に記載しているか	・療育や支援の中で「身体的拘束を行う」ことはありませんので、記載の有無に関しては考えていません。
満足度	44	利用者は、おひさまへの通所や支援に満足しているか	・ほとんどの利用者や保護者から、「療育や支援の成果を実感し、個別の対応や小集団活動(リトミックや余暇活動)を楽しみに通所している」との評価を受けました。

